

公共交通と学校教育の親和性

– モビリティ・マネジメントを中心に –

愛媛大学社会共創学部

教授 松村 暉彦

背景

- 平成20年版学習指導要領に基づく教育課程
 - 基礎的な知識・技能の重視
 - 社会参画と伝統・文化の強調←新教育基本法
 - 急激な社会変化への対応
- MM教育を構築しようとする動きが活発化
- 平成29年度版学習指導要領の改訂
 - 社会に開かれた教育課程の実現
- ←**社会の状況**を幅広く視野に入れ、学校教育を通してよりよい社会を作る
- **主体的・対話的**で深い学び
 - カリキュラム・マネジメントの確立←**教科横断的な学習**
 - 主権者教育

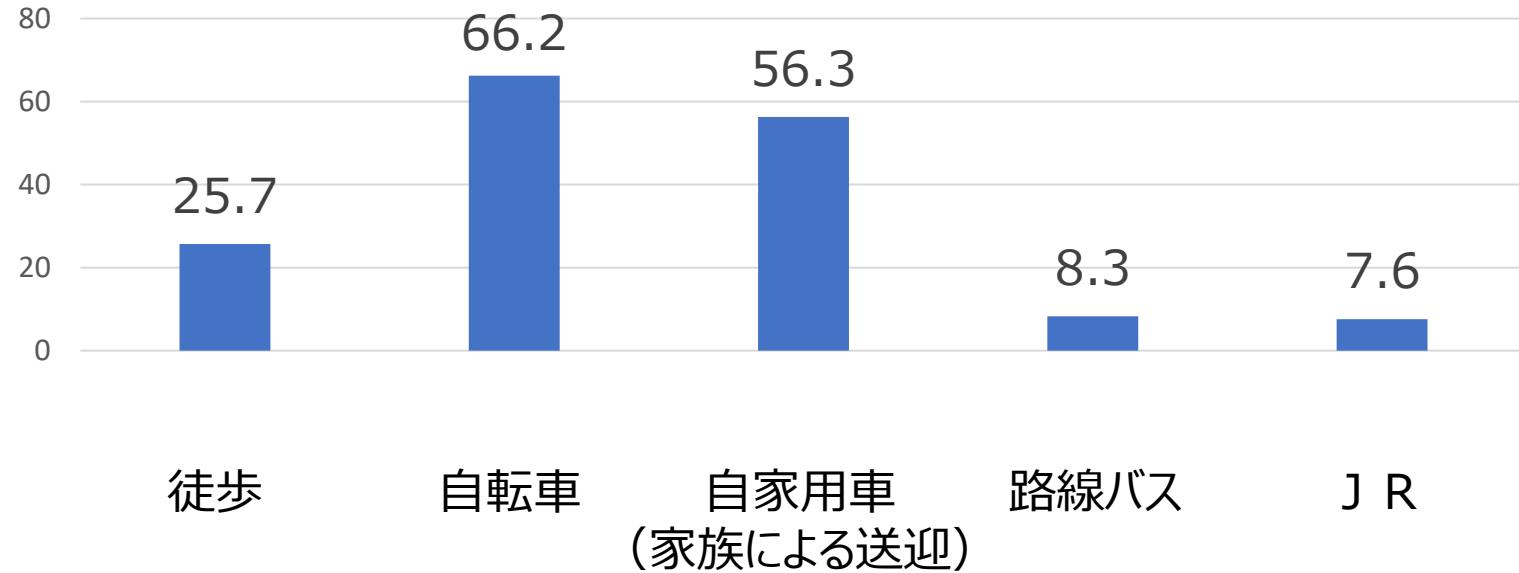
背景

～交通を取り巻く社会の状況～

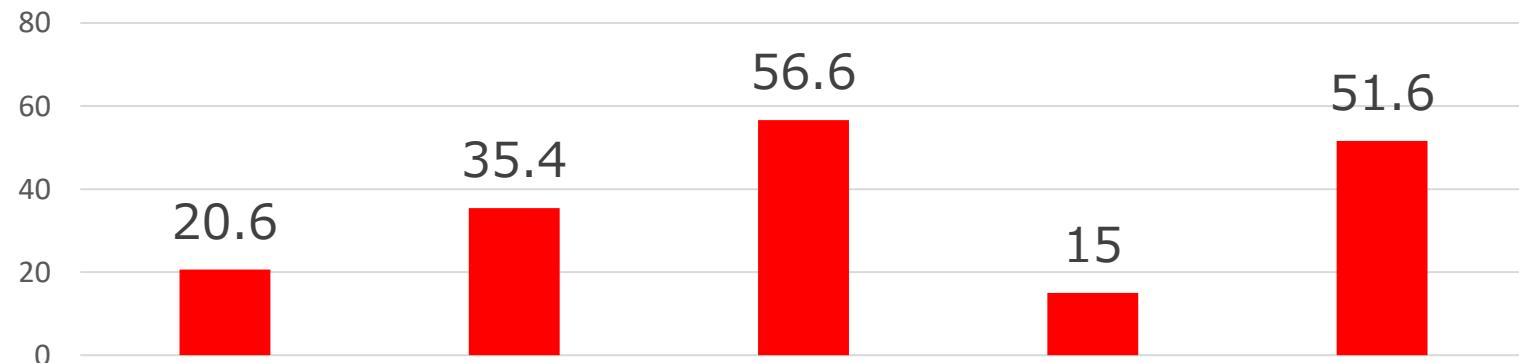
- ・ 地球温暖化、大気汚染等の環境問題
- ・ 慢性的な交通渋滞、移動困難者の移動の確保等の社会問題
- ・ バスや鉄道等の公共交通の利用者数減少、担い手の減少に伴う地域の衰退

高校生の通学手段（南予）

市内



市外



モビリティ・マネジメント

- 一人一人のモビリティ（移動）が、社会にも個人にも望ましい方向に**自発的**に変化することを促す、**コミュニケーション**を中心とした交通施策

- * 過度な自動車利用から適切な公共交通・自転車の利用
- * 危険な交通行動から安全な交通行動

モビリティ・マネジメント

藤井 (2025)

モビリティ + マネジメント

人の移動にまつわる
人と環境の相互現象

【交通、交通システム】

「**意志**」に基づく
集団的改善・維持

【政治/行政/経営/運営
/協働】

MMは単なる交通施策ではなく、その人の**「生き方」**も含まれる

MMの定義の社会科

社会科の「**教育内容**」として
数多く取り入れられている
例)バス・自動車・電車・船・飛行機: 小学校低学年(1・2年)の生活科, 中学年(3・4年)から高学年(5・6年)の社会科

- MMとはひとり一人のモビリティ（移動）が, 社会的

にも個人的にも望ましい方向に自発的に変化すること

を促す, コミュニケーションを中心とした交通政策

社会科の「**教育目標**」は
「**公民的資質**」の育成
公民的資質: 市民概念「個の自律性」
+ 国民概念「公共性への関与」

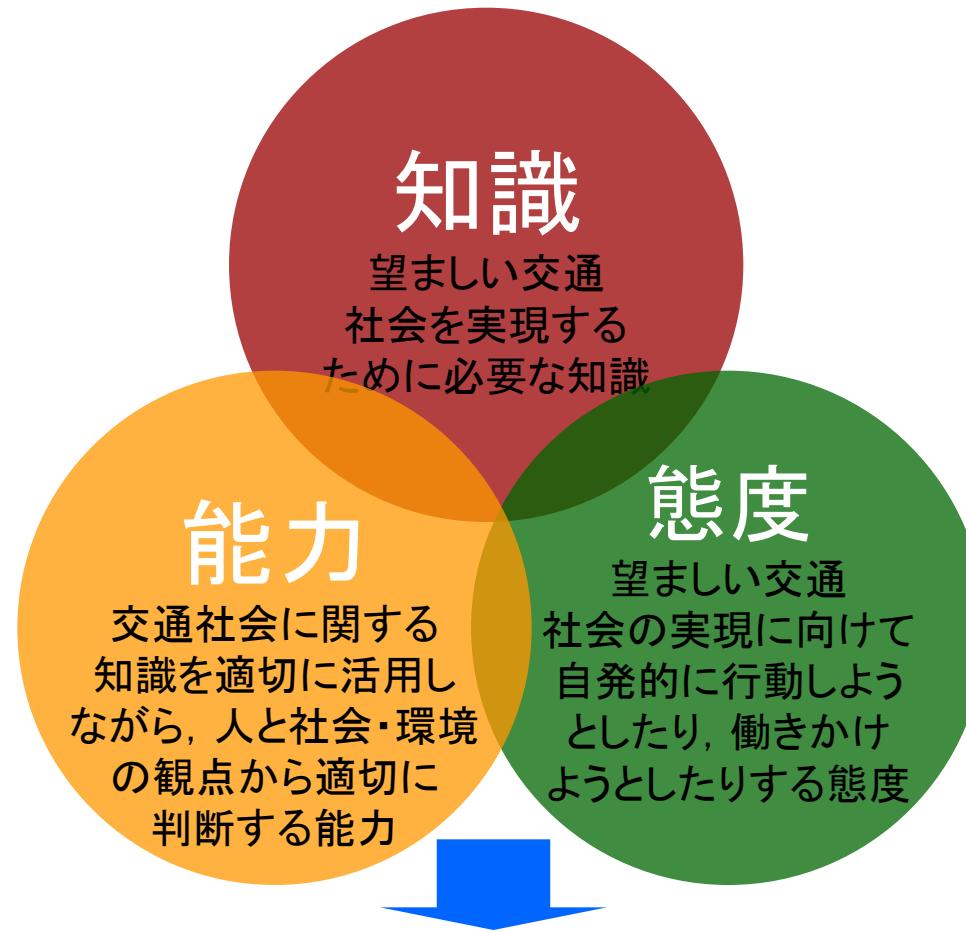
社会科における重要な
「教育方法」
公正な価値判断能力を, クラスマイトとのコミュニケーションを通して身に付ける

戦後の学校教育では児童生徒の「自発性」を重んずることで, 戦前との差別化

モビリティ・マネジメント教育の定義

- ・『モビリティ・マネジメント教育』とは、
私たち一人ひとりの移動手段や社会全体の交通を
『人や社会、 環境にやさしい』という観点から見直し、
改善していくために自発的な行動を取れるような人間
を育成することを目指した教育活動

MM教育で育成されるモビリティ・マネジメント力



よりよい社会の形成に主体的に参画する能力

公的かつ社会的な活動に私たち一人ひとりが参画することの重要性を認識し、自らも主体的に関与・参画し、貢献する能力

モビリティ・マネジメント教育との関連付けが考えられる授業

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
社会			◎	○	◎	◎
理科			△	○	△	◎
生活	◎	◎				
家庭					○	○
道徳	○	○	○	○	○	○
総合的な学習の時間			◎	◎	◎	◎
特別活動	○	○	○	○	○	○

社会科におけるMM教育との関連性

学年	学習指導要領内容	交通環境学習にかかる単元事例	事例
第3学年 (地域学習)	(1) 身近な地域と市の様子	○地域や市内の交通の様子 ○公共交通を利用したまちの探検 ○公共交通と土地利用のされ方	35頁
	(2) 生産や販売	○商品の仕入・生産物の出荷と物流 ○商品の产地しらべ ○買い物する店や品物と交通	65頁
	(3) 飲料水・電気・ガス・廃棄物処理		
	(4) 災害や事故の防止	○災害による交通への影響 ○交通事故危険箇所と道路整備の問題点	-
	(5) 地域の人々の生活の変化と地域の先人の働き	○昔から残るみち ○生活の変化と交通の移り変わり	45頁
	(6) 県(都・道・府)の様子	○交通網の整備と県(都・道・府)の発展 ○世界や他地域との交通によるつながり	92頁
第5学年 (国土・産業学習)	(1) 国土の自然などの様子		
	(2) 我が国の農業や水産業	○生産地と消費地を結ぶ物流の役割	65頁
	(3) 我が国の工業生産	○環境に配慮した自動車の生産 ○工業生産を支える物流の役割	148頁
	(4) 我が国的情報産業や情報化した社会	○暮らしを支える公共交通検索システム	112頁
第6学年 (歴史・政治学習)	(1) 我が国の歴史		
	(2) 我が国の政治の働き	○公共交通と税金の使い道 ○環境に配慮した交通まちづくり	150頁
	(3) 世界の中の日本の役割		

トップページ | モビリティ・マネジメント +

mm-education.jp

My Recorder | 勤革時 愛媛新聞電子版 愛媛大学教職員向け NAVITIME 三菱UFJニコス 給与掲示板 TVer - 無料で動画見... Home | 愛媛大学M... ホーム : Notta - Whe... DeepL翻訳 : 高精度...

モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）ポータルサイト

事業内容 支援について 手引き・教材 事例集 アンケート メールマガジン

「鉄道やバスなどを教材とした学習」に関する情報サイト

(例) フードマイレージ教材



1. 今日の夕食を作ろう！

- 
- ・“1970年グループ”と“現代グループ”に分かれ、それぞれの買い物キットを使って、夕食の買い物をする。具体的には、まず買い物先と乗りものを選び、その後、食材カードを使って、決められた予算内で夕食の買い物をする。
 - ・買い物した食材を使って、夕食の絵を描く。
 - ・グループごとに夕食メニューの発表をする。

2. 食はどこからどうやって運ばれてくるのだろう

- 
- ・選んだ食材カードの裏のシールを産地別に日本地図に貼り、昔と現在の生産地の変化に気づく。
 - ・食材カードの裏のフードマイレージカードのCO₂排出量を計算し、近場の食材を選ぶことで環境負荷が減ることに気づく。

3. 望ましい交通社会をつくるには何ができるだろう

- ・環境にやさしい買い物のために、自分たちにどのようなことができるかを考える。
- ・いろいろな事から自分で判断して行動できることの大切さを知ることができる。

自ら学び、考える力が身につく

- ・児童の生活に身近なテーマ
- ・時間軸、空間軸で考える

地域や社会のしくみが深く理解できる

- ・社会のしくみ（流通）
- ・生産、流通、消費の課題

社会との関わりが身につき、公的な視点を身につけられる

- ・買い物、移動は社会的行為
- ・地域への愛着の形成

単元 わたしたちのまち・大和

2008年度 兵庫県川西市立牧の台小学校 院去教諭（当時）

- 単元目標
 - 自分たちが生活している大和地区について**知り**、さらに愛着を持つ。大和地区の現状を知った上で、よりよいまちにするためには**どうすべきか**を考える。
- 評価
 - 自分が生活している大和地区に关心を持ち、進んで調べようとする。
 - まちには、まちをよりよくしたいと思う人たちが様々な仕事や活動を行っていることに気づく。
 - 自分の考えを他者にわかりやすく伝え、お互いの思いを大切にしながら、一つにまとめあげる。
 - 自分たちが生活している大和地区について、環境、安全、福祉、快適などの観点から、よりよいまちについて総合的に考え、今後の生活の中で実行しようとする。

- ・対象
 - ・小学校6年生 2クラス (69名)
- ・クラス
 - ・総合的な学習の時間
- ・学習支援
 - ・大和団地や能勢電鉄の歴史の語り（能勢電鉄 田中課長）
 - ・大和団地の歴史や自治会の活動紹介（大和自治会 八木下会長）
 - ・交通すごろくの出前授業、「ちいさいおうち」を使ったまとめの出前授業（大阪大学 松村准教授）
 - ・発表会のコメント（大和自治会 八木下会長、能勢電鉄 田中課長、兵庫県阪神北県民局 山内主査、大阪大学 松村准教授）

単元構造

大和地区についてくわしく知ろう

- ①気になることや調べたいことを出し合う。
- ②大和団地の成り立ちや特徴について話を聞く。
- ③調べたいことをもとにグループを作り、調べ学習を進める。
- ④調べたことを発表し合う。

まちを考える視点を学ぼう

- ①交通すごろくを使ってまちを考える視点（環境、快適、福祉、安全など）を学ぶ。

これからの大和地区について考えよう

- ①住みよいまちにするには、どんなことができるかを考える。

大和団地をよりよくするために働きかけよう

- ①自分たちが調べたことをまとめて、地域の人たちに伝える。

川西市内の小学校でのMM教育



能勢電鉄による地域の歴史と鉄道の出前授業

(川西市役所 中津留氏提供)

川西内の小学校でのMM教育



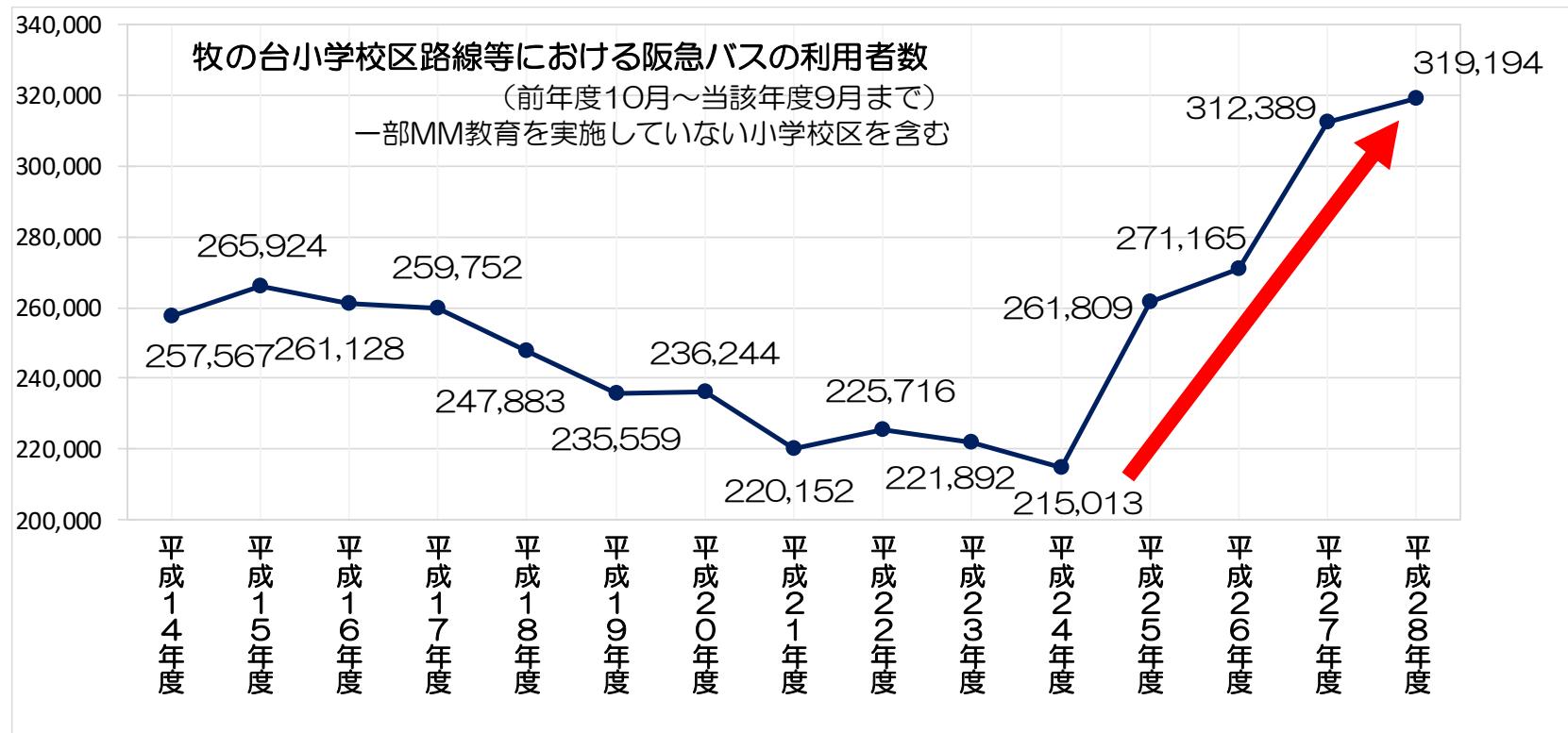
小学生がまとめた成果をスーパーで掲示

(川西市役所 中津留氏提供)

児童からの感想文

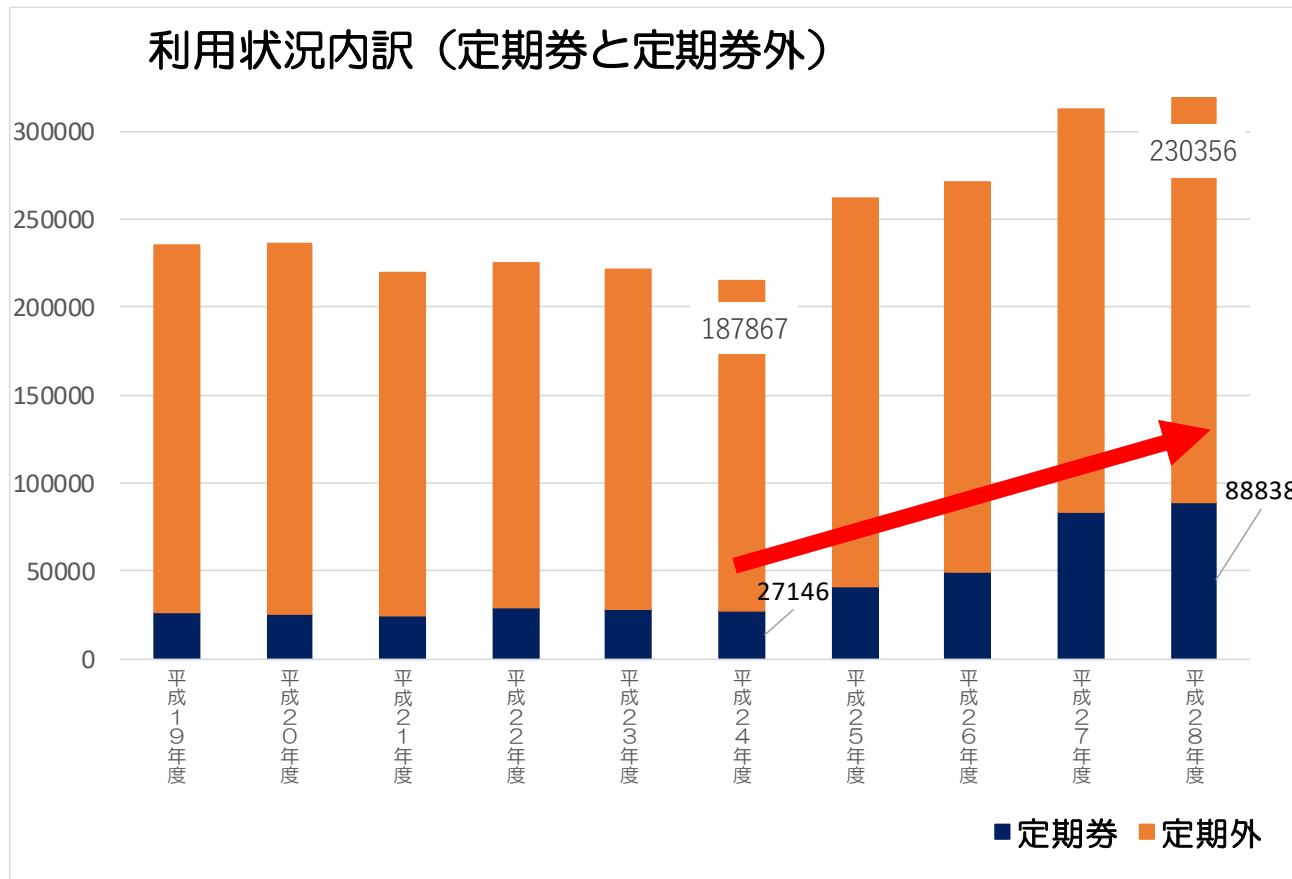
- ・「大和のことを知っていたつもりだったけど、今回、みんなが発表していたところは全く知らないことばかりでびっくりしました。もっと調べてみたいなと思うようになりました。」
- ・「ぼくはオンデマンド方式について発表しました。**気持ちをこめて**発表しました。」
- ・「いいまちにするには、しくみとこころとかたちの 3 つが大切だとうことも分かりました。」
- ・「授業を振り返って良かったと思ったことは、環境について学んで、**自分たちがしないといけない**ことが分かったことです。」
- ・「私は、この大和のことを発表したり、調べたりして、大和のことがよりいっそう好きになりました。」

川西市大和地区のバス利用者数



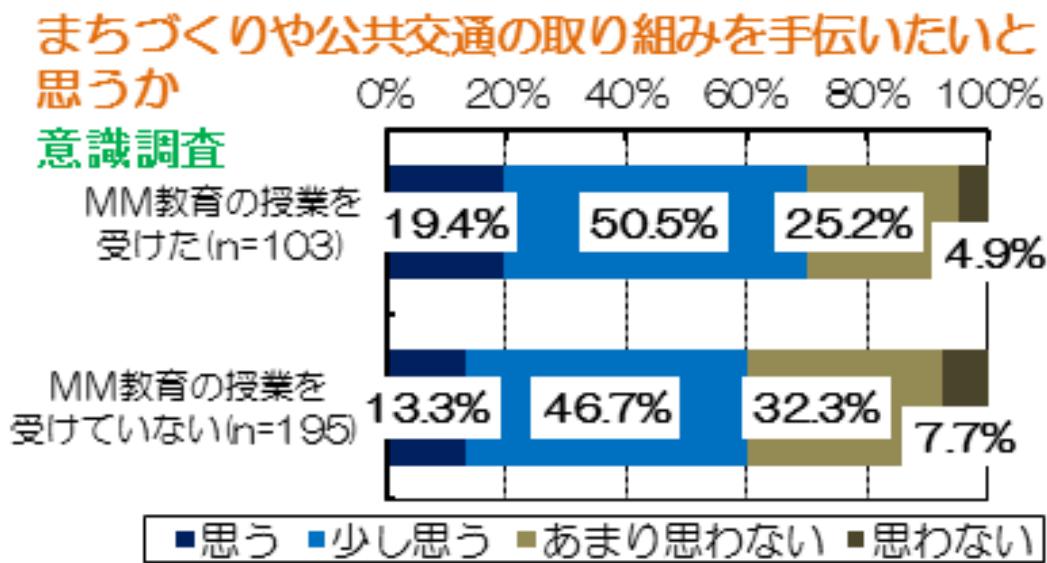
川西市公共交通基本計画策定会議資料より

大和地区的バス利用（定期券と定期券外）



(川西市役所 中津留氏提供)

評価（児童の評価）



6年後のアンケート

小学校の時にMM教育を「実施した」「実施していない」3つの小学校区の住民を対象に、卒業後、4年～6年経過した高校生等にアンケート結果

【調査規模】合計952人配布
【調査時期】平成26年3月11日に郵送配布し、4月14日を回収期限
【回答部数】315人回答率：33.1%

まとめ

- ・ 時代に求められているMM教育
- ・ MM教育の学習指導要領との親和性
- ・ MM教育の効果
 - ・ 自ら学び、考える力が身につく。
 - ・ 地域や社会のしきみが深く理解できる。
 - ・ 社会との関わりが身につき、公的な視点を身につけられる。
- ・ MMによる公共交通利用促進効果